

令和元年度（平成31年度）「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組

「品川区学力定着度調査」の趣旨

- (1)学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を把握し、教育課程や指導方法等に関わる区の課題を明確にすることで、その充実・改善を図るとともに、区の教育施策に生かす。
- (2)各学校は、教育課程や指導方法に関わる自校の課題・解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。
- (3)区民に対し、区立学校における児童・生徒の学力等の状況について、広く理解を求める。

1 調査日 平成31年4月16日（火）

2 調査対象 品川区立学校 第2～9学年の全児童・生徒

3 調査内容

(1)教科に関する調査

○調査の趣旨に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成

<第2・3学年> 国語、算数

<第4～6学年> 国語、社会、算数、理科

<第7～9学年> 国語、社会、数学、理科、英語

学校名 品川区立延山小学校

「令和元年度『品川区学力定着度調査』の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組」

国語科

(1) 国語科の定着状況についての概要

平成31年4月に、2～6年を対象として実施した国語科の調査において、国語科全体の正答率は、目標値より上回っていました。また、2・4・6年の国語科全体の正答率は、区の習熟規準を上回っていたので、国語科の学力定着状況は、おおむね良好であるといえます。また、3・5年生については、区の習熟規準から下回っていたので、努力を要する状況にあると言えます。

昨年度の態度表明で示した取組において、全体的に、チャレンジタイムや宿題、小テストなど漢字の復習に取り組ませた結果、漢字の読み書きが定着してきました。

(2) 学年ごとの課題・原因

学年	具体的な課題	課題の原因として考えられること
2年	言葉の意味を理解し、適切に使ったり文を書いたりする力が不十分である	言葉の意味をしっかりととらえたり、身に付けた言葉で文を書いたりする練習が不足している。
3年	・文章から読み取ったことを、まとめたり生活の場面で生かしたりする力が弱い ・書くことを決め、自分の考えが明確になるように文章を書く力が弱い	・経験、想像したことの中から、書くことを決めて文章に表現する経験が少ない。 ・文章の内容を読み取り、指定された長さでまとめる学習経験が足りない。
4年	自分の考えや思いを文にまとめることが難しい	・語彙が少ない。 ・書く経験が少なく、話し言葉から書き言葉への変換ができない。
5年	資料を読んだり他の人の意見を聞いたりしたことを、人に分かりやすく伝えることができない	資料や他の人の話から、大切な部分を抜き出して読んだり聞いたりすることができていない。また、それを相手に伝えるにはどうしたらよいか具体的な策が分からない。
6年	話し合いの場面で参加者の発言の共通点をまとめることができない	話し合い活動での司会の経験やグループで意見をまとめる経験が乏しい。

(3) 課題解決のための方策

- ①文章を書く能力を高めていくために、授業中に言葉の意味や使い方の理解を深めさせたり、読書の時間を確保したりすることで、語彙力を高めていきます。また、様々な文の定型を指導し、児童が場合に応じて書き分けられるように書く経験を積みさせていきます。
- ②高学年では、短い文章から大切な文章を書き抜きする練習に取り組ませたり、話し合い活動で出てきた意見をまとめさせたりすることで、文章を読み取る力やまとめる力を養っていきます。

(4) 次年度の数値目標

正答率が区平均を下回っている学年は、区平均を上回るようにします。また、「文章を書く」領域の正答率が全学年で区平均を上回るようにします。

「令和元年度『品川区学力定着度調査』の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組」

社会科

(1) 社会科の定着状況についての概要

平成31年4月に、4～6年を対象として実施した社会科の調査において、全学年とも社会科全体の正答率は、目標値・区の習熟規準より上回っていましたので、社会科の学力定着状況は、おおむね良好であるといえます。

昨年度の態度表明で示した取組において、デジタル教材やICT機器を活用して街並みや仕事の様子を児童がイメージしやすくした結果、社会の様子について理解を深めていくことができました。

(2) 学年ごとの課題・原因

学年	具体的な課題	課題の原因として考えられること
4年	工場の生産物の原料仕入れ先に見られる国内の他地域や外国などとの結びつきについて、資料を正しく読み取れていない	資料から情報を読み取ることができていない。
5年	警察の人たちの仕事や、安全を守るための工夫について理解できていない	警察の人たちの仕事や、安全を守るための工夫について理解が不十分である。
6年	自動車会社の工場と自動車の関連会社の立地について、資料を読み取ることができていない	資料から複数の情報を読み取ることができていない。

(3) 課題解決のための方策

- ①学習で使用したり作成したりした資料を読み取る時間を十分に確保します。また、テストだけでなく宿題等で資料の読み取りを繰り返し学習させ、読み取る力の定着を図ります。
- ②映像教材などデジタル教材やICT機器を活用し、実際に社会の様子がどのようになっているかを理解しやすくします。
- ③チャレンジタイムや高学年のステップアップ学習の時間を活用して、前年度の学習内容の定着を図ります。

(4) 次年度の数値目標

正答率が区平均を下回っている学年は、区平均を上回るようにします。また、上回っている学年は、正答率を今年度より5ポイント上げるよう努力します。

「令和元年度『品川区学力定着度調査』の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組」

算数科

(1) 算数科の定着状況についての概要

平成31年4月に、2～6年を対象として実施した算数科の調査において、算数科全体の正答率は、目標値より上回っていました。また、2・4・5・6年の算数科全体の正答率は、区の平均正答率を上回っていたので、算数科の学力定着状況は、おおむね良好であるといえます。また、3年生については区の平均正答率から下回っていたので、努力を要する状況にあると言えます。

昨年度の態度表明で示した取組において、日常生活の中で意識的に時間や時刻を意識させ、時刻を読む機会を増やしていったことで、時刻や時間に関する学習内容の定着状況が改善されてきました。

(2) 学年ごとの課題・原因

学年	具体的な課題	課題の原因として考えられること
2年	必要な情報を読み取り、答えを求める力が不足している	・求められている問いに答えるために、問題を正確に読み取る力が不十分である。 ・問題文から必要な情報を読み取ったり、示された式の意味を理解して文章問題を作ったりする力が十分についていない。
3年	・数直線上に示された数を読み取る力が弱い ・数の大小と不等号の意味の誤答が多い ・正方形や直角三角形などの特徴を理解していない	・数の大小や1メモリの置き差を理解する力が不十分である。 ・三角形、四角形の知識・理解の面での力が十分に定着していない。
4年	・(2ケタ)×(2ケタ)の計算ができておらず、その計算方法の説明ができていない ・棒グラフを書くためのメモリの大きさを理解できていない。	・計算方法は理解しているが、桁が大きくなると計算まちがえが多くなる。 ・メモリの大きさを値から推測することができていない。
5年	垂直と平行、四角形、直方体・立方体の特徴を理解できていない	図形、図形を構成する特徴について理解が不十分である。
6年	小数を分数の形に直すことができない	単位換算についての理解が不十分である。

(3) 課題解決のための方策

- ①図形の学習では、それぞれの形の実物を用意したり ICT 機器を用いたりして様々な角度から見させることで、図形の特徴を理解させるようにします。
- ②課題把握において、必要な情報を見つけて線を引いたり、丸で囲んだりして正確に読み取るための指導を工夫します。
- ③チャレンジタイムや宿題、5・6年生のステップアップ学習等で、基本的な問題はもちろん、応用問題にも取り組み、複雑な文章問題を理解できるよう指導していきます。

(4) 次年度の数値目標

正答率が区平均を下回っている学年は、区平均を上回るようにします。また、計算及び図形の領域において全学年で区平均を上回れるよう努力します。

「令和元年度『品川区学力定着度調査』の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組」

理科

(1) 理科の定着状況についての概要

平成31年4月に、4～6年を対象として実施した理科の調査において、4～6年の理科全体の正答率は、目標値・区の平均正答率より上回っていましたので、理科の学力定着状況は、おおむね良好であるといえます。

昨年度の態度表明で示した取組において、6年生の課題であっためだかのからだのつくりについて正答率が向上しました。また、基礎的な内容の定着を図っていったことによって、活用問題の正答率が大幅に向上しました。

(2) 学年ごとの課題・原因

学年	具体的な課題	課題の原因として考えられること
4年	昆虫のからだのつくりを理解していない。	体験したことと知識が結びついていない。
5年	空気と水の性質について理解ができていない	・温められた水や空気がどのように移動するか、理解が不十分である。 ・考察の力が十分に身に付いていなかった。
6年	顕微鏡で見たときのあさがおの花粉を理解できていない	あさがおの花粉についての内容を取り上げる学習が不十分だった。

(3) 課題解決のための方策

- ①植物や昆虫の観察によって得た知識をもとに、ワークなどに繰り返し取り組ませることで、知識や用語の更なる定着を図ります。
- ②宿題やチャレンジタイム、高学年のステップアップ学習などで繰り返し問題に取り組み、基礎的な内容の定着を図ります。
- ③各実験・観察を行った後、ノートに考察をさせ、全体で結果や考察を共有する時間を確保することで、性質や仕組みについて理解させます。

(4) 次年度の数値目標

正答率が区平均を下回っている学年は、区平均を上回るようにします。また、上回っている学年は、正答率を今年度より5ポイント上げるよう努力します